

◆ 平成29年度活動報告シート ◆

団体名：埼玉の森林を考える会

20A-19

代表者：会長 安井敏晃

URL :

1. 活動が必要とされた状況

シカによる森林被害の拡大や大径木の減少等から樹洞性の野生動物が減少しています。ニホンジカの生息実態調査や樹木保護並びに樹洞性野生動物の生息調査と保護を行い生物多様性に富んだ埼玉の森林や自然の保全を進める必要があります。



夜の野生動物観察会

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 野鳥・ヤマネ巣箱調査（4月～2月 27名参加）：県民の森に設置した大型巣箱及び夏鳥用巣箱の利用状況調査及び野鳥の生息調査を実施しました。昨年度からヤマネ用巣箱も設置して生息調査を開始しました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施（7月 11名参加）：（一社）埼玉県農林公社と共催した学習・観察を実施しました。
- (3) 森林におけるシカの影響調査（4月～2月 29名参加 内区画法12名）：ライトセンサスや区画法調査を行いました。
- (4) 情報発信（4月～2月）：展示館に野鳥観察モニター、調査結果やリーフレットを設置、1992年からの調査結果をまとめ情報発信を行いました。



ヤマネ巣箱調査



県民の森展示館・情報発信

3. 活動の成果

- (1) 野鳥及び巣箱調査：通年で51種の野鳥を確認しました。今年度、2014年度に設置した夏鳥用巣箱6個の夏鳥等樹洞性鳥類による利用はありませんでした。大型巣箱10箇所のうち6箇所の巣箱がムササビに利用されました。そのうち1箇所では4年連続して繁殖が確認されました。
60箇所設置したヤマネ用巣箱のうち35箇所の内部に、コケ、枯葉、ドングリ及び糞があり、ヤマネが利用したと考えられる巣箱が5箇所2ブロックで確認できました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施：学習室で映像を見てニホンジカの森林への影響、生息状況、野生動物の生態を学習後、車に分乗、森林と野生動物の理解を深めてもらいました。
- (3) 区画法調査の実施：ニホンジカ11頭を確認し、調査した面積62.02haにおける生息密度は17.7頭/km²となりました。
- (4) ライトセンサスの実施：4月から2月まで計10回（1月は積雪のため中止）実施しました。11月の調査では今年最多となる17頭を確認しました。例年と同様、9月から2月に生息密度が高いことが確認できました。

4. 今後に残された課題

野鳥及び巣箱調査では、想定された樹洞性野生動物を確認できました。ヤマネについては生息範囲や生息数を把握しながら希少動物の保護を検討する必要があります。ニホンジカについては、森林さらには農業被害が大きな問題になっており、生息実態や被害対策を進める必要があります。会の活動により知り得た情報を関係機関に提供するとともに観察会や報告会を通じて多くの県民の皆様に森林をはじめとする自然環境の状況と保全の必要性を発信していきたいと思っております。